

戦評用紙

大会名	令和元年度第70回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会山形県予選会
-----	---

日時	2019年6月9日 14:00 ~	区分	山形県高校体育連盟
----	-------------------	----	-----------

チームA				チームB
羽黒高等学校				日本大学山形高等学校
79	21	1Q	13	58
	16	2Q	23	
	16	3Q	17	
	26	4Q	5	
		延長		

【戦評】

男子決勝は3連覇を目指す羽黒と準決勝を激闘の末勝ち上がった日大山形との対戦になった。羽黒のスターティングメンバーは#1、#2、#3、#7、#25。日大山形のスターティングメンバーは#4、#5、#6、#8、#9。

第1Q両者マンツーマンでスタート。開始から約3分間拮抗した展開でお互いに点数が入らない。その後羽黒#1のジャンプシュートで先制。また、#2の鋭いドライブ、#7の3Pシュートで7-0とする。日大山形も#8のゴール下で得点するも、羽黒#3の3Pシュート、スティールからの速攻で12-2となったところで日大山形がたまたま1回目のタイムアウト。その後立て直しを図り、#6のドライブ、#11の3Pシュート、#8のインサイドプレーで得点を重ねる。羽黒も#1のジャンプシュート、#7の3Pシュートなどで得点を重ね、21-13羽黒リードで第1Q終了。

第2Q、日大山形が#8のインサイドプレーを中心に序盤ゲームを作る。#6の連続3P、#8のバスケットカウントで残り5分で30-29と逆転に成功する。その後、羽黒はディフェンスを2-3のゾーンに変える。均衡した展開が続いたが残り2分羽黒#1のスティールからの速攻などで33-30と羽黒が再度逆転に成功し、日大山形が2回目のタイムアウト。その後は両者流れを譲らず前半37-36羽黒が1点リードで終了。

第3Qは両者マンツーマンでスタート。一進一退の攻防が続くが、残り5分羽黒#1のドライブ、#7の連続3Pで45-41とし、流れを引き寄せたところで日大山形が後半1回目のタイムアウト。両者流れを譲らず、残り3分日大山形#8のインサイドプレーからのバスケットカウントで49-45となったところで羽黒後半1回目のタイムアウト。その後日大山形#9のドライブなどで53-53の同点で第3Q終了。

第4Q、お互い流れを譲らず、一進一退の攻防が続く。しかし、残り6分羽黒がリバウンドからの速攻で61-58とし、日大山形後半2回目のタイムアウト。その後、日大山形にミスが続き、羽黒は#2のレイアップ、#3の3Pシュートなどで一気に突き放し、67-58としたところで日大山形後半3回目のタイムアウト。しかし、流れは変わらず羽黒は着実に加点し、残り2分羽黒#3の3Pシュートが決まり、この試合最大点差の74-58となったところで万事休す。堅い守りとスピードを上げた攻撃で羽黒の勢いは最後までとまらなかった。最終的に79-58になったところでゲーム終了。羽黒が3年連続3回目の優勝を果たし、インターハイへの出場権を獲得した。両チームとも全力を尽くし、敗れた日大山形も最後まで諦めず戦ってくれたことに大きな拍手を送りたい。

戦評者 須田 倫信

戦評用紙

大会名	令和元年度第70回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会山形県予選会		
-----	---	--	--

日時	2019年6月9日 12:30 ~	区分	山形県高校体育連盟
----	-------------------	----	-----------

チームA				チームB
山形市立商業高等学校				山形中央高等学校
54	4	1Q	24	74
	19	2Q	10	
	19	3Q	19	
	12	4Q	21	
		延長		

【戦評】

第1ピリオド(4対24)

互いにマンツーマンDFでスタート。中央#4の3Pから、勢いよくスタートし、出だし3分で山形中央が0-9とリード。山商#5のインサイドプレーでようやく得点するも、シュートがなかなか決まらない苦しい展開。中央#7の連続得点で、残り3分で中央が2-16と大幅にリード。ここで、山商がタイムアウトで打開策を試みる。しかし、その後も中央#7のシュートが面白いように決まり、4対24と大量リードで第1ピリオドが終了。

第2ピリオド(23対34)

山商#5のミドルシュートから開始。山商連続得点でDFのプレッシャーを強め、追い上げにかかる。さらに山商#7の3Pが決まり、出だし3分で13点差まで縮める。ここから、中央#7のシュート、山商がドライブやゴール下のシュートで互いに引かず拮抗した状態が続き、中央が11点リードで前半終了。

第3ピリオド(42対53)

中央ボールでスタートし、出だし同様#4のミドルシュートから先制し開始。互いにリズム良くシュートを決めていく。山商が得点を取れば、中央#7がすかさず決め返し、簡単に流れを渡さない。山商は#8の速攻や#9のローポストプレーで得点していくも、中央はやはり#7が確実に得点し、#4が3Pで加勢する。大きな流れの変化はなく、11点差で終了。最終ピリオド、山商が追い上げるか、中央が引き離すのか。

第4ピリオド(54対74)

出だし山商#4がドライブで得点し、さらに3Pも決まり8点差に。追い上げムードが漂う。しかし、ここから山商はゴール下のシュートがなかなか決まらず、得点が入らない。それに対し、中央は#6のゴール下、#7のバスケットカウント、そして#4の勝利を決定づける3Pが決まり、一気に20点差に引き離す。山商も最後まで逆転を信じシュートを狙い続けたが、高確率でシュートを決め続けた山形中央が激戦を制し、インターハイの切符を手にした。

戦評者

會田 翔平